

アクティブ・ラーニングを取り入れた情報モラルの指導について
—自らの SNS 利用について振り返り、他者と考えを深め、問題を解決する授業を目指して—

済美平成中等教育学校

小田 祐太郎

1 主題設定の理由

現在、中高生にとって SNS は以前に比べはるかに身近なものとなり、二人に一人以上の割合で SNS を利用している現状である。本校の中学 3 年生に行った調査でも、クラスの約 9 割が SNS を利用している。時間や場所を越えてのコミュニケーションが可能となり、誹謗・中傷などの悪質な書き込みの問題や、ネット依存やテクノストレスなどの健康面への影響も懸念されている。

そのような情報社会で責任をもって生活していくためには、情報に関する法規や制度に適切に対応する力、情報モラルに配慮して情報を発信する力、情報セキュリティを確保する力などが必要である。特にその中でも、一人一人が情報の送り手と受け手、両方の役割として適切な行動がとれる、「情報モラル」が求められる。そのため本研究では、情報モラルをテーマとして考えたい。

2 研究の仮設

自らの SNS 利用状況について振り返り、それをもとにグループ、クラスの生徒と考えを深めることにより、現状の SNS 利用についての問題を解決するとともに、これからの SNS 利用について、適切な考えや行動がとれるようになるだろう。

3 研究の内容

(1) 指導計画について

ア 自らの SNS 利用状況を振り返る

本校の 3 年生を対象にアンケート調査を実施。携帯電話・スマートフォン保持の割合に加え、現在クラスや部活動、その他の友人との SNS を巡る人間関係の中でのトラブルを調査する。以前に行った調査において、複数の友人とのグループトークの中でのトラブルが多いという結果が得られたので、今回のアンケートでは特に、実際のグループトークをイメージした回答が得られる構成にしたい。

イ グループ、クラスの生徒と考えを深める

アで挙げた事前アンケートをもとにグループでの話し合いを行う。そこでは生徒や他者が考えた思考を相手に伝えたり、理解することを目的とする。話し合いで見出された問題（グループトークでのトラブル）を一つにまとめ、図や言葉を用いて可視化する。そして、その問題について、グループでの話し合いをもとに解決策を考える。

ウ 現状の SNS 利用についての問題を解決するとともに、これからの SNS 利用について、適切な考えや行動がとれるようになる

グループでの話し合いと解決策についてのクラス発表を互いに評価し、現状の

SNS 利用について改めて振り返るとともに、今後の自分自身における SNS 利用について改善を図れるようにする。

(2)学習指導案

情報科（社会と情報）学習指導案

日 時	平成 30 年 11 月 26 日 (月) 2 時間目		授業者	小田 祐太郎	
学年・組	3 年 4 組 情報教室		指導者		
単 元	1 章 情報社会と私たち 2 節 情報モラルと社会のルール		教科書	最新社会と情報 新訂版 (実教出版)	
指導目標	1 情報社会と人との関わりについて理解する 2 試行錯誤と振り返り及び改善を行い、情報と情報技術を適切に活用する 3 情報モラルを養い、情報社会に主体的に参画する態度を養う		指導計画	1 情報社会・・・・・・・・・・2 時間 2 情報とメディア・・・・・・・・・・2 時間 3 情報モラルと社会のルール・・・・・・・・・・3 時間 (本時は 3 の 2 時間目)	
主題	自らの SNS 利用について振り返り、他者と考えを深め、問題を解決する		課題	事前のアンケート調査 (携帯電話の有無や SNS の利用状況、トラブルなど)	
目標	1 特に LINE での実際のグループトークをイメージし、自らの SNS 利用状況を振り返る。 2 グループやクラスの形で、生徒や他者が考えた思考を相手に伝えたり、理解する。 3 クラス発表を互いに評価し、現状の SNS 利用について改めて振り返るとともに、今後の自分自身における SNS 利用について改善を図れるようにする。				
本時の指導過程	学習活動		時間	指導上の留意事項	評価基準・方法、資料等
	導入	1 本時の課題の確認をする。	10	・事前アンケートの結果を説明し、生徒自身の現状と、クラスの仲間の状況について知る。	○事前アンケート 【評価基準】 ○アンケートに、自らの SNS 利用の現状、トラブルなどについて記入できているか。
	展開	1 SNS 利用についての問題について考えをまとめる 2 個人でまとめた考えをグループでまとめる。 (1)LINE のグループトークにての問題 (2)問題の解決策 3 クラスでの発表を行う。	30	・アンケートの結果も参考に、自分自身で考えをまとめる。 ・4～5 人のグループで話し合いを行わせ、考えを図や言葉を用いて可視化し、まとめさせる。 ・前での掲示や情報室の画面表示を利用し、グループでまとめた考えを全体で共有する。	○ワークシート 【評価基準】 ○生徒や他者が考えた思考を相手に伝えたり、討議したり、理解するなど、積極的な活動ができているか。
	整理	1 本時の活動の振り返り	10	・クラスでの発表を評価すること で、現状の SNS 利用について改めて振り返るとともに、今後の自分自身における SNS 利用について改善を図れるようにする。	【評価基準】 ○これまでの自分自身の SNS 利用について振り返り、今後に活かしていこうとする内容となっているか。 ○ワークシート
備考	生徒数 34 名 (男子 19 名 女子 15 名)				

(3)アクティブ・ラーニングを踏まえた点

ア 授業開始・終わりの指示は必要最小限にとどめ、最大限生徒どうしの学び合いの時間を確保する。

- イ 課題の内容は、事前のアンケート調査でもトラブルとして多くあがっていた、LINEのグループトーク上でのトラブルとすることで、より活発な意見が出るようにした。
- ウ まずはワークシートで自らのLINE利用について振り返り、その後で話し合いを行う、自主的・協働的な活動となるようにした。
- エ 話し合いに入らない生徒を一人もつからないことを大事に、クラス全員で課題に向き合うことを伝えた。

(4)ワークシートについて

ワークシートについては以下のような構成にした。

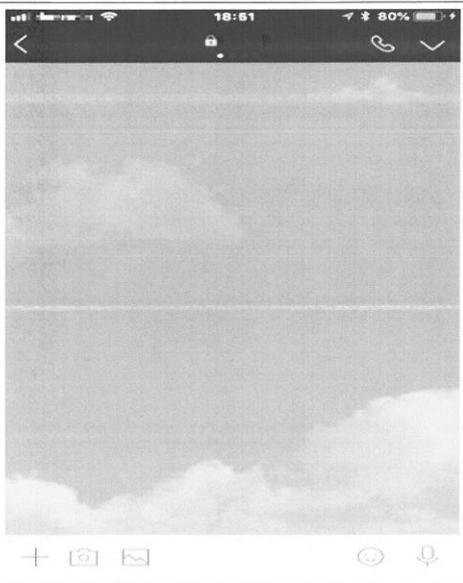
- ア LINEのグループトークについて考えるにあたり、まずは自分の身の回りで起こった、雰囲気の良いトークについて振り返る。
- イ アであがった内容を踏まえ、実際に経験したトークの様子をかいていく。
- ウ イのトークについて、なぜ雰囲気が悪くなったのか、その原因について考えることで、解決策の助けとする。

3年情報ワークシート(情報モラル) 3年 組 番 _____

LINEのグループトークについて考えよう

1 LINEのグループトークで雰囲気が悪くなる(悪化するとトラブルになってしまう)のは、どんなときだろうか。
 雰囲気が悪くなる
 例) 言い合いになる、相手(メンバー)の機嫌が悪くなる、仲間外れになる、など

2 1のときのグループトークの様子をかいてみよう。



説明

3 1、2を踏まえ、なぜLINEのグループトークで雰囲気が悪くなるのだと思いますか。

4 授業の感想

図1 授業で使用したワークシート

(5)授業実践

ア 全体の考察

学習指導案に基づいて授業実践を行ったが、予想していたよりも、各自の SNS 振り返りのためのワークシート記述、その後のグループ学習ともに積極的な活動が見られた。特にワークシート記述については、授業前に行った調査でクラスの 9 割以上が LINE を利用していることがわかり、自らの経験をもとに学習に臨んでいた様子がうかがえた。

また、それをもとに行った 4・5 人班でのグループトーク作成でも、各生徒が班員に、自分のワークシートの内容について説明し合っており、アクティブ・ラーニングの要素となる、各自が意見を出し合い、よりよいものにしていこうという自主的・協同的な学習が行えていたように見えた。

以下に学習の様子と、生徒が実際に作成したグループトークの画面を示す。



図 2 生徒が作成したグループトーク画面



図 3 グループトーク作成中の様子

イ 授業後アンケート

授業実施後に簡単なアンケートを実施した。結果は以下の通りである。

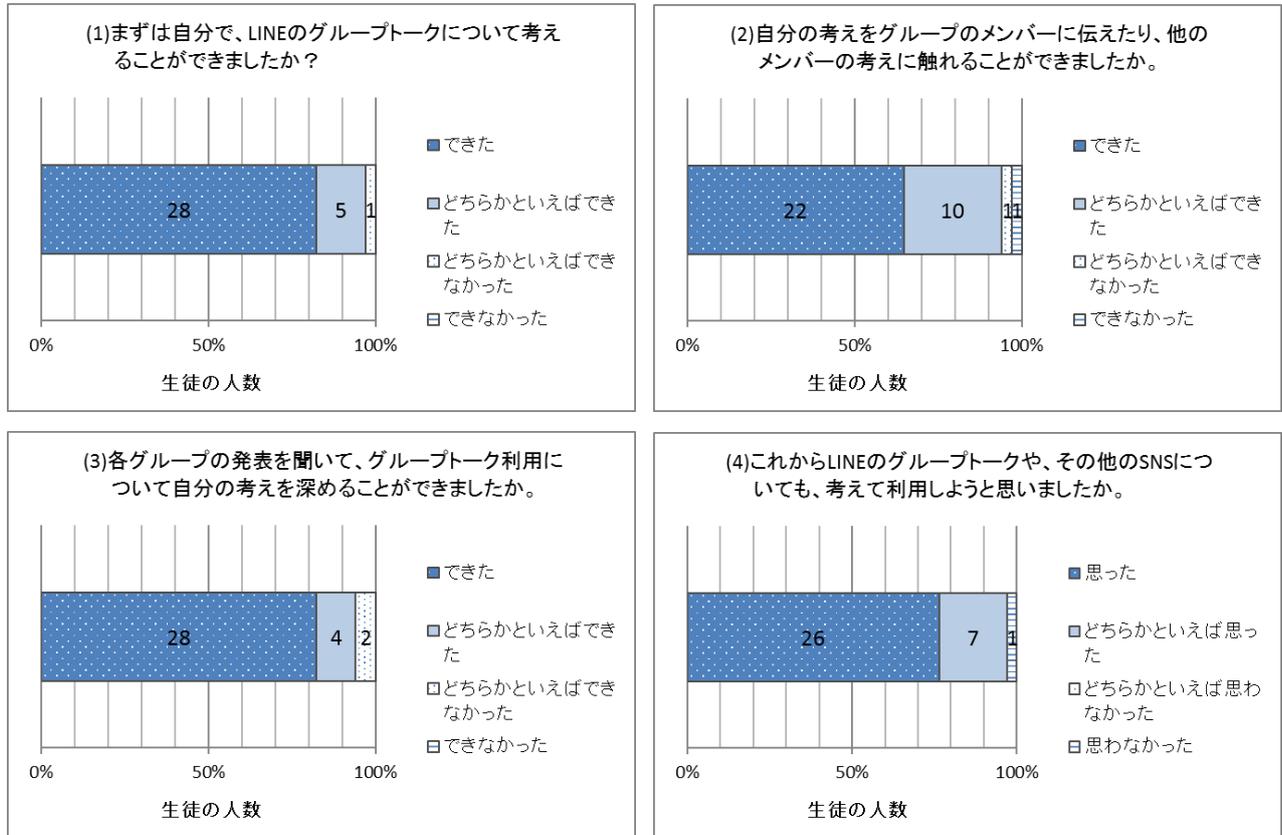


図4 授業後アンケート結果のグラフ

アンケート(1)の結果より、クラスの90%に近い人数の生徒が自らのSNS利用の現状、トラブルなどについて考えられていることがわかる。

アンケート(2)はアクティブ・ラーニングのポイントとなる「自主的・協働的な活動ができたか」を問う設問であったが、90%以上の生徒が「できた」、または「どちらかといえばできた」と回答しており、自分が考えた思考を相手に伝えたり、討議したり、理解するなど、積極的な活動ができていたことがわかる。

アンケート(3)、(4)の設問では今回のアクティブ・ラーニング型の授業を通して、他の人の考えや経験に触れることで、これまでの自分自身のSNS利用について振り返り、今後活かしていこうとしているか、を問うたが、こちらも90%以上の生徒が「思った」、または「どちらかといえば思った」と意欲的に回答しており、アクティブ・ラーニングを行っていない場合の結果は調査できていないため比較は難しいが、今回の学習の形態が、生徒の学びの姿勢に影響を与えられているといえる。

4 研究のまとめ

今回の授業実践を、アクティブ・ラーニングを取り入れた情報モラルの指導について、というテーマのもと、自らのSNS利用について振り返り、他者と考えを深め、問題を解決する授業を目指して、というサブテーマで行なってきた。今回は生

徒たちが経験するグループトーク上での問題を解決するところまではいけなかったが、根本にある、そのような問題を引き起こす原因については考えることができた。

特に大きな原因として、多くの班があげているグループ退会機能がある。自分が退会するだけでなく、簡単に友だちを退会させられるこの機能は、今の中高生にとって人間関係を過剰に変化させる大きな要因になっていると感じた。その他の原因については、スタンプを過剰に押す行為（スタ連やスタ爆）、集団での既読無視や未読無視、トゲトゲワード、不適切な画像の投稿など以前から問題になっているものが多かった。

生徒の反応としては、「普段自分が利用している LINE について再度見直すことができた」、「みんな経験したことがある事例が多く、共感できた」、「みんなで考えることで、とても身近に感じられた」、といったものが多く、自分の生活経験を踏まえた学習を行なっていたように感じた。SNS との上手な付き合い方は、今後も継続して指導していく必要がある。今回のアクティブ・ラーニングの手法は、情報モラル教育にもとても有効である手応えを感じたので、今後も指導方法を研究していきたい。